



どら ほうらいらかん
銅鑼:アイダ「蓬萊羅漢」
GR-40S

資料登録番号
2007-02

2007年に入手した、直径1mの青銅製の銅鑼です。

展示場2階「音がきこえる」エリアの「いろいろな楽器」にあります。普段は触れないように結界しています。が、実際には、お客様が触ってしまい、当時、写真のようにピカピカだった表面に、今では緑青が浮いています…(;_;)

銅鑼には、音程が出せるゴング(Gong)と、複雑な低音の響きが特徴的なタムタム(Tam-tam)がありますが、これはタムタムです。

大きなタムタムの音を間近で聞いたことがありますか？

この銅鑼には、黒いフェルトが先端を覆う、専用のバチ(マレット)が付属しており、銅鑼の中央を叩くと…グオワァ~~~~~ンと、すごい音が響き渡ります。大型船が音響信号設備として使用するのも頷けます(展示ではバチは非公開)。

音はモノの振動です。

銅鑼を叩くと、丸い形状と凸凹の表面の効果で、多波長の振動が生じます。音がしている時、銅鑼の表面を触るとビリビリします。

そして音が聞こえるのは、モノの振動が空気の振動として伝播し、耳の中の鼓膜を震わせるからです。銅鑼が鳴っている時、自分自身の体もビリビリ震えていることに気づきます。空気の振動を体が感じているのです。

機会があれば、不思議な音色と非常に長い余韻の銅鑼を体験してください。



石坂 千春(科学館学芸員)